

● 今月の新着図書 ●

議会図書室からのお知らせ
令和5年2月号



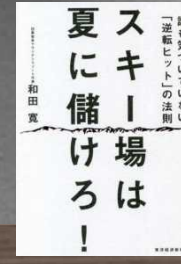
『イーロン・マスクとは何者か ~世界を救うヒーローかクレイジーな夢追い人か』
桑原 晃弥【著】/リベラル社

ウクライナへの衛星ネット接続サービスの提供の一方で、ツイッター社の大量解雇など、何かと物議をかもし行動も多いイーロン・マスク氏。「世界を救う」ことを夢見た天才の、壮絶すぎる人生と型破りな未来戦略に迫る。



『ぶっちゃけ、誰が国を動かしているのか教えてください~17歳からの民主主義とメディアの授業』
西田 亮介【著】/日本実業出版社

誰が国を動かしているのか?メディアは本当に正しいのか?若者向けに、いまの政治を【自由の価値】と【コスト】で読み解いた気鋭の社会学者の白熱講義!



『スキー場は夏に儲ける! ~誰も気づいていない「逆転ヒット」の法則』
和田 寛【著】/東洋経済新報社

スキー客が激減し、衰退する一方だった白馬岩岳を、わずか2年で「夏に稼ぐ」スキー場に変えた! 異色の経歴を持つ著者が明かす「逆転ヒット」の法則。



『リデザイン・ワーク~新しい働き方』
リンダ・グラットン【著】/東洋経済新報社

人生100年時代を提唱した、世界トップの経営学者、リンダ・グラットン氏。世界中の様々な企業の現場事例をもとに、私たちの「仕事のあり方」、ひいては「働く意味」「人生の豊かさ」を「リデザイン(再設計)」する。



『モビリティX シリコンバレーで見た2030年の自動車産業DX、SXの誤解と本質』
木村将之・森俊彦【著】/日経BP

すべての産業で課題となっているDX、SXの「誤解」をひも解く。モビリティX時代に求められるアプローチと、世界で日本企業らしく戦うための切り口を提示する。



『ペアレントクラシー ~「親格差時代」の衝撃』
志水 宏吉【著】/朝日新聞出版

「親ガチャ」と子どもに言わせる社会になぜなったのか? 現代日本は「ペアレントクラシー(親の影響力が強い社会)」という言葉で形容できるほど、社会階層の固定化が進んでいる。その経緯を分析し、教育の公正の実現に求められる策は何かを提言する。



『虫とゴリラ』
養老 孟司・山極 寿一【著】/毎日新聞出版

医師の養老孟司氏と、霊長類学者の山極寿一氏。2大知性というべき両者が語りつくす、日本の未来像。未曾有の危機を迎えている人類を待つものは希望か、滅亡か。“虫とゴリラ”の目で、人間の世界をとらえ直し、自然との新たな共存の道をさぐる。



『82年生まれ、キム・ジョン』
チョ ナムジュ【著】/筑摩書房

共感と反発を引き起こした韓国のベストセラー小説、同名映画の原作。主人公「キム・ジョン」は1982年生まれの韓国女性に最も多い名前、彼女の人生をとらえて、どこにでもいる女性の生きづらさ、根深い性差別、社会問題を描き、社会現象となった作品。



『リクルートOBのすごいまちづくり 議員という仕事』
かもめ地域創生研究所【編】/CAPエンタテインメント

リクルート出身者たちは、なぜ不人気職種ランキング最下位級の「議員」を選んだのか? 何が彼らを熱くするのか? 仕事の実態や議員のなり方など、地方政治の世界に入った彼らがその本音を語る。

トピックス「教育」に関する書籍（既刊）



1



2



3



4

1. 『21世紀の教育～子どもの社会的
能力とEQを伸ばす3つの焦点』
ダニエル・ゴールマン 他【著】
/ダイヤモンド社

EQとは、「心の知能指数」を意味する言葉。新時代を生きる子どもの社会的能力とEQを伸ばすアプローチとは？世界の先進校が熱い視線を注ぐSEL教育とは何か？「次世代リーダー育成」のためのバイブル、遂に日本上陸！

3. 『「学力」の経済学』
中室 牧子【著】/ディスカヴァー・トゥエンティワン

直滑降ストリームでゲストとして登場した慶応大学中室教授の著書。「ゲームは子どもに悪影響？」「褒め育てはした方がよい？」「ご褒美で釣ってはいけない？」今まで「思い込み」で語られてきた教育・子育ての効果を、科学的根拠から解き明かす。

2. 『FUTURE EDUCATION！
～学校をイノベーションする14の
教育論』
教育新聞【編】/岩波書店

現場の最前線に立つ教育者のインタビュー集。ノーベル賞受賞者による教育目的の再考から、AIの活用や世界基準の教師、授業YouTuberなどの取り組みまで、未来志向の教育潮流を導き出す。

4. 『教育DXで「未来の教室」をつくろう
～GIGAスクール構想で「学校」は生まれ変わるか』
浅野 大介【著】/学陽書房

各国の教育改革やOECDが発表しているこれからの教育を見据えつつ、経産省が関わりさまざまな学校で始まった試行錯誤の実践事例を紹介。実現可能な「未来の教室」のありようを可視化する。

図書広報委員がおすすすめする一冊

『ゴミ拾いをすると、人生に魔法がかかるかも♪』



著者 : 吉川 充秀
出版年 : 2022年
出版 : あさ出版



紹介者 : 秋山 健太郎 委員

著者は、太田市に本社を置いている株式会社プリマベラの創業者で、24歳の時に創業し、グループ全体で4事業部17業態51店舗を運営し、年商47億円までに成長させたゴミ拾い仙人こと、吉川充秀さん。タイトルからすると、いわゆるスピリチュアル系の本かと思ってしまうのですが、マテリアル(物質社会での成功をメイン)とスピリチュアル(精神世界での幸福)の両面に精通した著者が、二つをつなぐものが「ゴミ拾い」であると結論づけ、ゴミ拾いを通じて上機嫌になることをテーマにした、とてもユニークな内容になっています。

是非ご一読を。

次号では、牛木 義 委員におすすすめしていただきます！